



なすびの花

今年の内部監査の振り返り

内部監査は、社員が自分の担当部署以外の部署を確認する社内監査のことで、毎年5月頃に実施しています。

内部監査の目的は色々ありますが、わが社では、各部署の日常業務の仕組みを、社長方針に沿って、決めた通りのルールで運用されていることの確認が主な目的です。

今年の内部監査は、初めて内部監査の主監査員を担った人員が半数程度ありましたので、改めて『内部監査』について、おさらいしてみましょう。

経験の浅い主監査員には、何年か経験を積んでいる社員を、副監査員として付けます。

副監査員の役割は、主監査員に適宜助言を行うことです。

主監査員は、監査する部署に対して、事前に品質環境マニュアルや規定などで調査し、監査項目ごとに、質問内容を考え、監査当日に備えます。

監査当日は、書類上だけの確認だけではなく、状況に応じて、現場確認も行います。

内部監査は、年に一度の会社の健康診断とも言えますので、問題点の早期発見がとても大事なことです。

内部監査報告では、実際の業務を変更しているのに、品質環境マニュアルや規定の内容が更新されていないといった、という内容の発見が時々見られます。

業務内容を変更した際には、品質環境マニュアルや規定の内容にも反映しておく必要があります。

このように内部監査では、仕組みの有効性を

確認することにより、各部署の業務内容の確認や改善にも一役買っています。

指摘内容は、重箱の隅をつつくような指摘ではなく、QMSの目的を理解した上で、改善に向けての指摘であることが大切です。

また、被監査部署の人が仲が良いからとか、怖い相手だからという理由で忖度することのないように、会社が良くなるためと考え、遠慮せず、前向きで建設的な指摘を行いましょう。

そして、主監査員は、監査が終わると、内容をまとめて報告書の作成を行います。

指摘を受けた被監査部署は、理由や事情があれば、その内容を説明し、是正の必要の有無を検討します。

是正することを決定した場合、具体的な期限を設けて、迅速に是正処置内容を決め、主監査員と副監査員に通知します。

監査員は、指定された期限が来たら、指摘した内容に対して、被監査部署の是正処置により、問題が解決していることを確認し、フォローアップします。

以上の流れで、内部監査が終了します。

このように、自分の携わっている部署ではない部署を監査する事で、他部署の業務内容を詳しく知る良い機会にもなります。

会社が、そして内部監査員自身も、健全な成長ができる内部監査を、維持していきましょう。

1時間雨量のお話

先月号で、エルニーニョ現象の夏から秋は、豪雨災害などが多い傾向になるといってお話を書きましたが、天気予報でおなじみの「降水量が1時間に何mm」とかいう情報に、どの程度の雨量なのか想像できなくて、気象庁のHPで目安を調べてみました。

まず「降水量」というのは、

「降った雨がその場所に溜まった場合の水の深さ」

のことで、観測には「転倒ます型雨量計」というのが使用されています。

2mm以上の降水量になると傘が必要になります。

① 10mm～20mm やや強い雨でザーザーと降る

② 20mm～30mm 強い雨でどしゃ降り

③ 30mm～50mm 激しい雨でバケツを

ひっくり返したように降る

20mm以上の雨は警報級となります。

④ 50mm～80mm 非常に激しい雨で滝のように降る

⑤ 80mm以上 猛烈な雨で恐怖を感じる

50mm以上の雨は災害級となり、外出は控え、自治体の指示に従うことが肝心です。

まだまだ雨に油断できない季節が続きます。

自宅周辺や会社周辺に、土砂崩れ等の危険箇所がないかを確認し、来るべき時のために、万全の備えをしましょう。

高める意識と安全行動

築こうみんなのゼロ災職場

7月1日から1週間、「全国安全週間」です。

安全に対する意識を高め、安全を維持しましょう。